

ひだご坊

No.328
2016年11月20日

発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 出雲路 善公
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社



報恩講厳修



今年も十一月一日から三日まで、高山別院の報恩講が勤められました。報恩講は多くの方が思い入れのある特別な仏事です。そのため、一年に一度の特別な莊嚴(しょうげん)を行い、多くのご門徒さんによつておみぎき、お掃除がなされ、お華東(けずく)が盛られ、仏花が立てられます。今年も境内では恒例となった大根汁をはじめ、さまざまなお店が出され賑わいました。多くの皆様方の関わりをもつて、高山別院の報恩講は何百回となく営まれてきました。何百年も続いてきているというこの事實は、厳肅(げんじゆ)に受け止めなければならぬと思います。しかし、当初から今のように賑わっていたわけではございません。親鸞(しんらん)聖人が明らかにされた本願念仏(ほんがんねんぶつ)の教えに生き抜いてきた先達(せんだ)が集まり、そのご恩に感謝する仏事が年月を重ねて賑わうようになったのではないのでしょうか。しかし昨今では、賑わなければ報恩講でないという思いに苛まれ、どうしたらたくさんのお参りいただけるかに思いがいつてしまい、



のようにおつしやつておられました。私は驚いて「何か工夫をしておられるのですか」と尋ねますと「特に何もしていない」というのです。「どうして、こんなに参拝が多いのか」。ますます疑問は深まるばかりでしたが、参勤していた法中(ほうちゆう)の方に聞いてみてわかりました。そのお寺は、毎月36か所の同朋会(どうぼうかい)を各在所で行つており、ご住職が地道に足しげく通われ、お念仏の教えをじっくりと時間をかけて語つておられたのです。ですから、そのお寺での報恩講は、自然と報恩謝徳(ほうおんしゃとく)の集い(講)となつていたのでした。

報恩講が「仏事」ではなく「行事」になつてしまいがちです。報恩講で毎年拝読される『御俗鈔(ごぞくしょう)』には「聖人の御恩を報謝(ほうしゃ)するところろざしはあるのか」、「聖人と心の響きあいのない名ばかりの門徒ではないのか」、次々と厳しいお言葉を投げかけられてきます。そして最後に「お前は南無阿弥陀仏を必要としていないのか」という鋭い問いが突き刺さりま

す。このお言葉に触れる時、改めて報恩講をお迎えする私の志は本末転倒(ほんまつてんたう)していることに気づかされます。私が長崎におりましたときのこと

高山別院輪番 出雲路 善公



を思い出します。ある寺院の報恩講にお参りさせていただくと、多くの参拝者で満堂(まんどう)でした。「ここはよくご門徒さんが参つておられるなあ」と感心して住職さんに尋ねてみますと、「毎座(まいざ)こんなもんですよ」と当たり前



同じ花は二度と立てられないということです。その都度(ごと)その都度の花のいのちに出あわれ続けた華方(けうか)さん。その一つ一つのいのちの歴史がご坊(ぼく)さまを彩(いろど)つてきました。



表彰(ひょうしょう)状を受けられた今井武男(いまいぶさお)さん・山本常一(やまもとつねいち)さん・榎木一男(えのきかずお)さん・下嶋辰昭(しもじまのあき)さん・田中勇(たなかゆう)さん・保木隆(たけみりゅう)さん



浄土の莊嚴(しょうげん) 別院華方(べついんけうか)

仏教各派の特徴を言い表した「禪掃除(ぜんじゆじゆ)、真言料理(しんごんりり)、門徒(もんた)華(け)」ということばがあります。門徒(もんた) (真宗門徒)の莊嚴(しょうげん)では、仏花がとても華やかで目を引くということから、そのように言われてきたのです。真宗門徒が仏花を非常に大事にしてきたという歴史がうかがえます。

去る11月1日、高山別院の仏花を立てられている華方(けうか)さんが贈られたのは、20年以上勤続された4名、30年以上勤続された1名、40年以上勤続された1名の計6名。お話をうかがうと、「華方は上下関係ではなく一緒に技を磨(こ)き、人間を磨く場」、「まめにさせてもらつてありがたい」、「昔やんちゃをしていて、花でも立てよと言われここに連れて来られた。気が付いたらここまで来ていた」と話されました。

高山別院 子ども報恩講

子ども報恩講を終えて
11月12日、子ども報恩講を開催いたしました。初めて来てくれる友達や顔なじみの友達も来てくれました。また、天候も子ども達の笑顔のように眩(くら)しい太陽に恵まれ、穏やかな一日となりました。今年(ことし)は忙しい中、青少幼年(せいしょうごうねん)のメンバー以外(おほな)に大谷婦人会(おほにんかい)の方々や若手寺族(わかしよ)のお力添(ちからぞ)えで開催することが出来ました。今年(ことし)は「親鸞(しんらん)と弁円(べんえん)」の紙芝居(かしばし)をみんなで観ました。その後、五辻駐在(ごじつじゆうざい)教導(きょうどう)より紙芝居(かしばし)をうけて阿弥陀様(あみださま)のおはたらきや、ご自身の実体験(じつたいけん)などわかりやすくお話をいただきました。昼食(ひるめし)は子ども報恩講(こどもほうおんこう)名物(めいぶつ)の「うどん」をみんなでおいしくいただきました。最後にうどんの準備(じゆんび)を下(くだ)さった大谷婦人会(おほにんかい)の皆さんといつものお姉(あね)さんにお礼(れい)を言(い)って、お楽しみ(おんぎな)の「遊びの広場(ひろば)」にレッツゴー！今年(ことし)は三輪車(さんりんしゃ)レースがなく、子ども達は残念(ざんねん)そうでしたが、射的(しゃてき)・缶倒(かんとお)し・ストラックアウト(すたらくあうと)・綿菓子(わたがし)と行列(ぎょくぎょう)がなくなることがなく、きらきらとした目で遊ぶ子ども達(こどもたち)を見ると、これからは子ども達(こどもたち)と出遇(であ)っていきたいと思(おも)える時間(じかん)でした。



飛驒御坊(ひでごぼく) 御遠忌(ごえんぎ)通信(つうしん) ⑤

屋根完成!!
御遠忌(ごえんぎ)記念事業(きねんじぎょう)の第一期工事(だいいちきぎ)として行われた、本堂(ほんどう)屋根葺(かぶ)き替え(かへ)工事(こうじ) (銅板葺(どうばんかぶ)及(およ)び庫裡(くら)改修(かいしゆ)工事(こうじ) (便所(べんじよ)新設(しんせつ)及(およ)び水屋(みづや)改修(かいしゆ))は、10月6日(じゅうごふに)に工事(こうじ)検査(けんさ)を実施(じしげ)し、全ての工事(こうじ)が完了(げんりゅう)したことが確認(かくにん)されたことから、10月25日(じゅうごにじゅうご)に(株)中村社(かぶちゅうむらじや)寺(てら)より引き渡(ひきわた)しが行(おこな)われました。

本堂(ほんどう)屋根改修(かぶかへ)工事(こうじ)については、今年(ことし)4月に足場(あしば)が設置(ていじ)され、5月から6月にかけて屋根瓦(やねがわ)の撤去(てつこ)が、6月から8月にかけて木造(もくぞう)工事(こうじ)を行い、8月中旬(じゅうちゆう)から9月末(ごふせいのひ)にかけて銅板葺(どうばんかぶ)工(こう)事が行(おこな)われました。今年(ことし)は比較的(ひかくてき)雨(あめ)の少ない(すくない)気候(きこう)であったこともあり、全ての作業(さぎょう)が順調(じゆんてう)に進(すす)み、高山別院(たかみやまべついん)の新たな威容(いよう)が姿(すがた)を現(あらわ)しました。

☎テレホン法話(0577)342313
○11月21日～30日：北條秀樹氏「了泉寺」
○12月1日～10日：江馬雅臣氏「賢誓寺」
○12月11日～20日：白尾公信氏「了心寺」
宗教トラブル相談窓口(0577)3210763

私を照らす

ひかりの言葉 ⑬

酒井 義一

いつまでも若くて健康で... 私を照らす

しかし、このような思いは、実は... 世を抱える問題

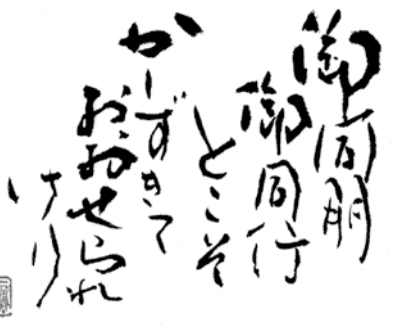
2016年7月下旬、神奈川県... 世を抱える問題

彼の考えや行為を正当化するこ... 出会いの欠如

彼「障がい者の人たちは何を考... ひとりと出会う

今回の事件の被害者の家族は「息... やがて彼は自分をも殺す

彼も縁が熟せば、いつだって障が... 次回



次回は藤場芳子さんの「女と男のナムアミダブツ」です。

子ども作品展

10月22日から11月3日まで、小・中学生の書道作品



御坊報恩講

大如来

- 【金賞】 たんごうりこ・杉山二郎... 【銀賞】 香川滉貴... 【銅賞】 野中正宗... 【佳作賞】 清水愛美...

高山別院 報恩講奉仕御礼... 12月14日(水) 午後2時~4時